



議会だより

# ピツシリ

TEL (0164) 62-1211 内線510 FAX (0164) 62-1278

北海道苫前郡羽幌町南町1番地の1

## 目次

定例議会	P2~P3	一般質問(金木氏)	P4
一般質問(平山氏)	P5	一般質問(寺沢氏)	P6
一般質問(小寺氏)	P7	常任委員会報告	P8~P9
22年度決算特別委員会、あしがき	P10		



羽幌小学校5学年 総合学習より『収穫作業・稲刈り』(平成23年9月26日)

行動する議会をめざして!

ぜひ議会の傍聴にお越し下さい

次回の定例会は12月です

- 10月
  - 11日 議会広報特別委員会
  - 17日 総務産業常任委員会
  - 21日 羽幌町総合振興計画調査特別委員会
- 9月
  - 8日 議会運営委員会
  - 14日~16日 第6回羽幌町議会定例会
  - 15日 22年度決算特別委員会
  - 16日 議会広報特別委員会
- 8月
  - 18日 全道議会広報研修会(札幌)
  - 25日 文教厚生常任委員会
  - 31日 留萌管内町村議会議員研修会(苫前)
- 7月
  - 27日 総務産業常任委員会
  - 28日 文教厚生常任委員会
  - 28日 医療問題調査研究特別委員会

議会日誌



# 例

# 会

～16日

- ◎一般質問
- ◎議案
- ◎報告
- ◎同諮
- ◎諮問

- 4名
- 4件
- 1件
- 2件
- 1件

## 舟橋町長行政報告

**水稲、豆類はおおむね順調、大盛況の甘エビまつり**  
 主要農作物の生育状況について、「水稲」は田植え後の低温により初期育成が遅れたが、その後、晴天にも恵まれ、徐々に回復し、平年並みの収量となる見込みである。「秋まき小麦」は、生育前半の低温・日照不足で、収量も平年に比べ低く、品質も劣っている。「大豆」「小豆」は、8月の高温で持ち直し、順調に生育。「アスパラガス」「ミニトマト」は、前年・平年と比べ、収量が下回った。

観光客の入込状況では、「ヨサコイソーランまつりin焼尻」「天売うに祭り」とも、約1,000人の人出で賑わった。第1回目となった「はぼる甘エビまつり」は、2日間の人出約2万8,000人、甘エビも2,500箱を完売し、他の出店者も完売するなど、地元経済にも効果大で、大盛況であった。

## 同意

- 教育委員会委員に佐藤善昭氏を任命
- 固定資産評価審査委員会委員に茶谷政良氏を選任

## 諮問

- 人権擁護委員に村田菊男氏を推薦



## 報告

- 財政の健全化判断比率及び公営企業の資金不足比率について
  - ・「実質赤字比率」「連結実質赤字比率」については、実質収支額が黒字であり、財政状況は健全。「実質公債費比率」「将来負担比率」においても、早期健全化基準を下回っており、是正改善を要する事項でも、特に指摘すべき事項はない。
  - ・水道事業の公営企業会計でも、健全な経営状態にあり、特に指摘すべき事項はない。

## 議案

- 税条例の一部改正
  - ・厳しい経済状況や雇用情勢から、税制整備のための地方税制等の一部を改正する法律施行に伴う改正

- 23年度一般会計補正予算2,243万円の追加
  - ・テニスコートのトイレの下水道接続 299万円
  - ・電算システム改修委託料 91万円

- ・基幹水利施設ストックマネジメント事業負担金(築別、羽幌頭首工) 860万円
- ・水産物新荷捌所・事務所建設予定地地盤調査事業補助金 45万円
- ・企業振興促進補助金 400万円
- ・除雪委託料(築別、高台など) 280万円
- ・社会教育関係団体活動支援補助金 220万円

- 23年度国民健康保険事業特別会計補正予算50万円の追加
- 23年度介護保険事業特別会計補正予算402万円追加

## 採択された意見書

- 「離島振興法」の改正・延長を求める意見書
  - ・総合的な離島振興策を強力に推進するため、「離島振興法」を改正・延長すること。
  - ・国庫補助負担金の一括交付金化にあたっては、離島への補助金・交付金等は一括交付金の対象から除外し、国の責任において必要な額を確保すること。
  - ・23年度に実施された、「離島ガソリン流通コスト支援事業」については、暫定的予算措置であるため、税制改正により、恒久的な措置を実現すること、など。

## 森林・林業・木材産業施策の積極的な展開に関する意見書

- ・東日本大震災の速やかな復興に向けて、被災した森林や木材加工施設等の早期復旧に加え、復興木材の供給に向けた被災地域及び全国における森林・林業再生を加速化すること。
- ・今般導入される地球温暖化対策のための税の使途に森林吸収源対策や木材利用促



# 定

9月14

# 9月

- 選挙 — 1件
- 認定 — 8件
- 発議 — 5件
- 意見案 — 3件



## 選挙

○選挙管理委員会委員、補充員の選挙  
 ・11月16日に任期満了となる選挙管理委員、補充員の選挙を行い、それぞれ4名ずつ選出した。

### 〈委員〉

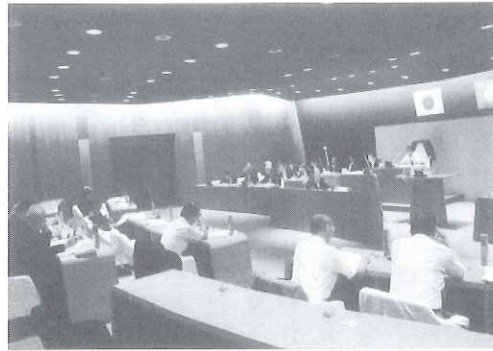
桑門 孝明氏  
 佐藤 和史氏  
 藤井 裕介氏  
 大窪 敦子氏

### 〈補充員〉

棟方 法男氏  
 芳賀 美穂氏  
 佐藤 宇礼氏  
 工藤 喜文氏

## 認定

○22年度決算の認定について  
 ・22年度の各会計決算認定については、決算特別委員会に付託され、9月15日の委員会審議（左写真）を経て、各会計とも認定された。  
 （詳しい審議内容は10ページに掲載）



## 発議

○総合振興計画調査特別委員会の設置、委員の選任

委員長 橋本 修司氏  
 副 “ 磯野 直氏

○防災計画調査特別委員会の設置、委員の選任

委員長 熊谷 俊幸氏  
 副 “ 金木 直文氏

○議員の派遣について

○各委員会の閉会中の継続調査、審査について

### 〈総務産業常任委員会〉

- ① 羽幌港湾道路振動騒音調査結果、安全対策
- ② 市街地区除雪計画
- ③ 簡易水道の維持・管理状況
- ④ 産業団体との意見交換会
- ⑤ 商工業の現状と雇用状況
- ⑥ 緊急を要する所管事項

### 〈文教厚生常任委員会〉

- ① 保育園建替え事業
- ② 小学校建替え事業
- ③ ミックス事業
- ④ 緊急を要する所管事項

### 〈議会運営委員会〉

- ① 本会議の会期、日程に関する事項
- ② 議会の運営に関する事項
- ③ 議長の諮問に関する事項

進を位置づけるなど、森林整備推進等のための安定的な財源措置の確保による森林経営対策を推進すること。  
 ・低炭素社会の実現に着目した公共建築物や民間住宅・事務所等での地域材の利用を推進するとともに、新たなエネルギー政策の転換の検討に当たって、木質バイオマスエネルギーを最大限活用するなど、国産材の利用拡大を推進すること、など。

**住民の安全・安心なくらしを支える交通運輸行政の充実を求める意見書**

・震災復興と被災地対策をはじめ、住民の安全・安心な交通運輸を支える行政は、国が責任をもって直接実施すること。

・住民のための交通運輸行政を確立するために、国の出先機関である地方運輸局を充実すること。

・広大な北海道の交通・運輸行政を充実するために、運輸支局を充実すること。



## 町行政の

課題をたどる！

# 一般質問

## 1. 「子育て支援医療費還元事業」の制度設立へむけて 2. 高額な水道料金問題への対応について



金木直文議員

### 子育て支援策「前向きに検討」

【金木】子ども医療費の給付事業について、北海道の制度に上乗せ助成している自治体が、全道179自治体中、110を超えている。中学生までの対象も46自治体、さらに北斗市など4市町では高校卒業まで全額助成している。こうした、無料化にふみだす自治体が増えている動向を、どう評価するか。

【町長】「乳幼児等医療給付事業」については、北海道医療費助成制度と同基準で実施している。一般的に医療費は、医療サービスの提供を受ける観点から、受診者の一定負担が原則である。また、現行の厳しい財政状況や、実効ある少子化対策の再構築が求められる中、無料化施策の妥当性

や医療費の増大などから拡大実施はしていない。今後においては、他市町村での実施状況を踏まえ、子育て支援全体を推考し、考えていきたい。

【金木】8月から小学生以下の無料化に踏み切った苦前町の担当課によれば、「高学年になるほど体も丈夫になり、思ったほどの負担とはならない」とも言っている。「考えてまいりたい」というのは、前向きな答弁と受け取って良いのか。

【町長】予算の検討、健康保持のあり方、子育て支援施策など、体系付けが必要と考え検討してきた。前向きにやろうと、今どういった形でできるか、取り組み始めている。

【金木】胆振管内むかわ町では、医療費の自己負担分を現

金でなく、町内の商店などで使える地域通貨「むかわ町金券」(左写真)で還元している。そうすれば、子育て世代への支援と町内の商業活動の活性化にもつながる。実施してはどうか。



【町長】商業活動の活性化につながる事業の一つと考えられるが、医療費の給付は「子育て支援事業」と捉えており、経済的負担を少しでも軽減し、家庭を安定させ、子どもたちが健やかに成長することを支援するもの。現時点では現金給付を基本とするのが妥当と考える。

水道基本使用量の10t、  
今後は見直しへ

【金木】羽幌町の家庭用水道料金は、道内で上水道が6位、簡易水道では2位の高額料金(21年度資料)。全国でも10位(19年度)となっている。「高い」という認識はあるか。

【町長】料金改定時の検討では、管内や道内の料金体系を

参考とした。日本水道協会調べでの全国の料金と比較すると、高位であるが、企業会計の性格上、やむを得ない。

【金木】企業会計だからといって、青天井に料金が上がっていいものではない。管内でも高料金の増毛町、天塩町、苫前町などとも連携しながら、国や道へ対策を迫っていくべきでないか。

【町長】取り組み可能な対策があるのかどうか、自治体間で話し合ってみよう。

【金木】16年12月議会での料金改定の審議で、低所得世帯対策など、福祉的制度での対応も課題としていたが、現状や見直しはどうか。

【町長】現在まで見極め、判断ができていない。それは、企業債償還が元利合計1億円以上のペースで28年度まで続き、企業会計唯一の収入源の有収水量でも、水洗化での増加見込みが、当初より落ち込んでいることによる。

現在、国の臨時特例措置として設けられた財政融資資金の保障金免除繰上償還制度にのって償還を早め、財政の健全化を図ったうえで、少しでも早く可能であれば実施していきたい。24年度から水洗化

率の向上対策を行い、有収水量の増に大きくつながれば、料金体系の見直しも検討する。料金全体の減額とならなくても、家庭用では8t以下の者が40%を占める現状から、基本使用量の見直しには着手したい。

【金木】基本水量の見直しとなった場合、家庭用以外の営業用、工業用なども含めての見直しとなるのか。

【建設水道課長】全体的な見直しとして取り組むが、具体的に踏み込んでの検討はまだしていない。

【金木】水洗化率向上対策と水道料金問題との関係を、どうとらえているのか。

【町長】水洗化への障害の一つに、水道料金の問題もあることは認識しているが、水道事業が企業会計であることを考えると、水洗化率向上対策として安易に水道料金に言及すべきでない。

【金木】低所得世帯でも水洗化につながるよう、一定期間、一定額の水道料金補助をするといった、激変緩和措置も含めて検討してもらいたい。

【町長】水洗化率向上対策の中には低所得者層への考えも入れて、今検討している。



## 道立羽幌病院の医師確保の取組について



平山美知子 議員

町民一丸での要請行動を

【平山】町民が望んでいる福祉、医療が充実した安心な町づくりに対して、どの様に取り組むのか。

【町長】北海道と協力体制を取り、常勤医師の確保の支援、ドクターヘリが円滑に運行出来るよう、施設整備をしたい。

【平山】医師研究資金等の利用状況、今後の活用に向けた取り組みは。

【町長】利用件数6件、家具家電貸与3件、今後も医育大学等に、広報活動していく。

【平山】「ほんとうに地域の医療が困っている」という想いが伝わる内容の広報活動が必要と思うが。

【町長】医師に直接会って説明したりしている。

困っているという現状を、

相手に伝わる様な努力も、必要と思っている。

【平山】一つの町、一つの病院だけで考えていても医師確保は難しいと思う。例えば、留萌市立病院と連携して、取り組んでいく方法も、必要と思うが。

【町長】道立羽幌病院の管理運営、人事等は北海道が行い、本町は側面からの支援のみとなり、留萌市立病院と同一の立場での連携は難しいと、考えている。

【平山】北海道任せでいても医師の補充にはなっていない。羽幌町独自で、医師確保に向けた、取り組みをしていく考えも必要ではないか。羽幌町として補助を出し、留萌市立病院と一緒に取組みをしている、医師を派遣してもらう事により、羽幌病院で固定医を

確保出来なくても、毎日、外来診療ができる体制の道筋ができると思うが。

【町長】余裕のない体制が組まれているのが現状である。医師確保は、道立病院なので、道が主体的な動きになるが、我々の立場として、道に協力するとか、留萌市立と連携を組むとかも含めながら、医師確保をしていかなければならないと考えている。



道立羽幌病院

【平山】町民が望んでいるのは「診療科目によっては毎日診療してほしい」、この事も踏まえ取り組みしてほしい。

【平山】北海道に対しての、医師確保の要請行動に於いて、町民一丸となって考え、行動

を起こし、取り組むことも必要と思うが。

【町長】住民が望む診療科目の設置は、難しい状況にある。しかし、町民一丸となって、どの様な行動が出来るかも踏まえ検討していきたいと考えている。

【平山】町民が本当に困っている、不安に思っている、この実態、生の声を形にして、訴えていかなければならないと考える。今後、羽幌病院の医師の配置にも掛ってくると思う。町民一丸となった行動を早急に検討し、実現していく取組が是非必要と考えるが。

【町長】管内全体、それぞれの組織を作りながら、北海道に対し訴え続けてきている。医師確保が究極の目標であると思うので、診療科目の事も含めながら、強く要望していく。窮状を訴え続け、住民の要望に叶う活動を粘り強く続けていく。

【平山】町民一丸となった行動を早急に実現して欲しい。

【平山】「地域医療を守る会・折り鶴」の活動に、どのような支援をするのか。

【町長】活動費の一部を補助金により支援していきたい。

【平山】住民を代表する形で設立された会ではないかと思う。補助金の支援の他に考えている支援は。

【福祉課長】それぞれ自由な立場で考えてほしい。町として側面的に支援するが、行政の力が出せない所を民間の人に、新しい発想で要請して欲しいので、補助金という形で支援する。

【平山】行政として、お互いに情報を共有し、連携を持つ事により、医師確保に向けた、取り組みにも繋がっていくのではないか。

最後に、道立病院だから道でする、という意識ではなく、わが町の病院という意識を持つ考えも必要であり、安心して暮らしていけるように、羽幌町の取組みが急務と考える。離島を抱えている羽幌町としては、北海道が責任を持って、運営して貰う事を、強く要望していく事も、今後大きな課題と思う。



1. 羽幌港中央埠頭完成に伴う諸問題について  
2. 離島振興法改正および離島振興計画策定について



寺沢 孝毅 議員

福寿川河岸整備計画を早期に

【寺沢】羽幌港中央埠頭完成に伴い、福寿川河岸整備をすべきでは。国庫補助対象外となる漁協事務所部分への町補助は。

【町長】羽幌橋から南2条通りまでの砂利道整備は、アクセス道路の改修や歩道のはがれの改修が優先されるため、当面は現状のままの使用と考える。

小型船の係留箇所は、古くからの懸案事項。河川区域を港湾区域に変更しようと試みたが、河川法が適用され実現していない。10次計画以降、港内の静穏度対策として船揚げ場南の整備を協議中で、そこを河川に係留する船舶が使用できるようにしたい。

北るもい漁業協同組合は、平成16年に4町村の各漁業が合併した。合併当時の経緯

や現況を踏まえ、関係町村と協議・検討したい。

【寺沢】羽幌港長期計画基本構想ではホテル、海鳥センター、バラ園とフェリー埠頭が移転する中央埠頭が連動・一体化し、交流できるような整備を目指す。福寿川河岸整備の年次計画を早期に示すべきでは。

【町長】整備内容のこともかながみ、計画を立てたい。



福寿川河岸地域

【寺沢】漁協事務所の移転は、合併振興策の一つ。合併当時の書類に期待値として示されていた「3分の1補助」から議論が始まるということか。

【町長】本町も加入する北海道離島振興協議会や全国離島振興協議会を通して、改正・延長を要望してきた。本年8月23日には、私を含む北海道離島振興協議会構成首長5名全員で民主党、国土交通省などに中央要請を行った。明年2月には東京で離島振興法改正・延長実現総決起大会も参加予定である。

【寺沢】フェリーターミナルの移転に伴い、これまであった食堂・売店スペースがなくなり、あるべきではないか。「難しいからやめる」のであれば、この町は衰退する一方。どんなアイデアを出し合ったかが問題。供用開始まで知恵を出してほしい。

【寺沢】離島の振興計画は、現在の進められる形のみでは限界。別な形で計画をつくるための検討を進めたい。今後どのような体制づくり等が必要か検討時間がほしい。

【町長】漁協との連携の可能性も含め、少し検討したい。

【寺沢】離島の振興計画は、町の総合振興計画に合わせなければ宙に浮いた計画になる。連動させて進めるといふことではないか。

両島独自の振興計画策定へ  
【寺沢】天売、焼尻2島に關わる離島振興法が平成24年度末で期限切れとなり、改正・延長へ向けて様々な動きが出ている。離島振興法改正に向けた当町の取り組みは。

【総務課長】来年3月完成の総合振興計画と同時期に完成させるのは、物理的にできない。できる限りすぐ作業には取りかかり、島の抱える問題や声を確認・把握し、新しい計画に登載したい。若干今の総合振興計画より後になる。

また、当町では次年度以降の羽幌町総合振興計画を策定中だ。天売島、焼尻島の独立した総合振興計画を策定すべ

【寺沢】全国離島振興協議会

は離島振興法改正に当たり、船賃について、鉄道並みの距離当たり運賃導入に言及している。羽幌〜天売間27キロと同じ札幌〜朝里間のJR運賃は530円であり、旭川〜深川間30キロを特急に乗っても1、730円しかかからない。離島振興の一番の問題は船賃負担が大きいことで、それがすべてのネックとなっている。こうしたより具体的な視点で、強い働きかけをお願いしたい。



高速船「さんらいなあ」乗降客

【町長】北海道離島町村一丸となって、離島住民の振興につながる動きに持っていきたい。離島の独立した振興計画は、島の振興の将来のあり方、目標とする姿を描くため、最終的にいつまとまるかは別にし、すぐに取り組む。



## 保育園の現状と今後の方向性について



小寺光一 議員

保育園はどうなるのか？  
『何も決定していない。早急に取り組む!!』

【小寺】羽幌町立羽幌保育園は、昭和42年12月に新築、翌年昭和43年4月に開園され、過去に4度の修繕作業を行い今年で43年経過している。議会での質問や、ここ数年は特に頻繁に保育園の運営や改築について議論が起きている。しかし、町民の多くは一向に進まないことに対して不安と疑念を持ち、保育園の今後の方向性に高い関心を持ち、行政の動向に注目しているが。

【町長】保育園は老朽化が進んでおり、早期改築の必要性は理解している。しかし、国の施策の全容が明らかにならなかったことから、これまで保育園の改築及び運営の方向を示せなかった。平成16年第

7回定例会でも改修、改築についての質問があったが、幼保一元化や運営の民間委託等の課題もあるので、それらを含め検討していきたいと答弁した。

【小寺】現在保育園の施設、運営の問題点は何か。

【町長】施設が狭隘で老朽化しており修繕が必要な箇所については随時改修をしている。運営は、以前に比べゼロ歳児保育や障がい児保育児童が増加傾向にあり、今後職員の負担がふえていく傾向にある。

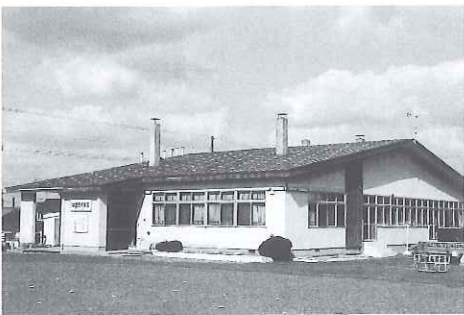
【小寺】児童福祉施設検討委員会（以下、検討委員会）から出された報告内容を受け、何を決定し、実行したか。

【町長】検討委員会とは町として子育て支援を進める上で保育園の改築にとどまらず、総合的な児童福祉施設のあり

方について協議検討頂き、平成17年6月から平成19年11月まで4回開催され、幼保一元化、施設形態、施設の建設方法等についてのご意見を頂きました。しかし、その後の政権の保育分野の制度、規制改革の内容が不透明であったことから、児童福祉施設検討委員会が休止状態にあり、町として決定した事項はない。

【小寺】当時建設場所の候補地としていた旧役場跡地の売却の経緯は。

【町長】検討委員会の経過報告で保育園建て替えの候補地の一つとして旧役場跡地が挙げられ、あたかも決定されたような報道もあったが、行政の中で検討する判断材料の一つではあるが、その段階にお



築43年経過した羽幌保育園

いては保育園用地としての位置づけなどを決定したことはない。

農業協同組合から、将来の改築予定地として先行取得をし、現在の事務所用地とも一体性を持たせた有効活用を図りたいとの強い要望があり、町は、総合的に判断し、売却した。

【小寺】保育園に対する今後の方向性と具体的な対策や政策はあるのか。

【町長】国の方針が示され、保育園が老朽化していることから、結論を出す段階にきている。運営を含めた施設の設定方法には、いろいろな選択肢がある中、羽幌町にとってどの方法が最善なのかを検討し、児童福祉施設の方角を決定していく。

【小寺】現在も13名の職員のうち3名しか正職員ではなく、施設長を含む残りの方は、臨時職員等で働いている。仕事の内容や責任も同じくあるにも関わらず、職員の体制づくりも検討していくとの答弁もあったが平成14年には7名以降正職員を減らしてきている。職員の正職員に対する割合については、どうか。

【福祉課長】3名のほかは、

臨時職員等で補充して保育の実施を行っており、人数につきましては法的なものはない。

【小寺】平成14年から「検討する」との答弁で、9年間検討し続けている。町は、今の段階で何をしていくのか。

【町長】いろんな多面から考えながら取り組んでいかなければならないということが責務であり、そういう検討がなされてきて、今やっとその方向が見えてきた。建てるのか建てないのかということではなく、子供たちや必要としている人達に施設を提供していくというスタンスで早急に取り組んでいく。

【小寺】正職員を増やさない、候補地の売却様々な選択肢を行政側がとらべていると感じる。この計画は、いつまでにどのような形で進めていくのか、2つ幼稚園の現状を把握しているか。

【町長】町の保育園というものをどう住民のために取り組んでいくか、保育園のあり方について、今は方向が定まっていない。簡単に決まるものではないが規模からすべてのことを含めながら早急に判断する。私立の幼稚園の状況は把握していない。



文教厚生常任委員会

(7月28日開催)

離島航路運行体制

について

フェリー1高速船・2隻体制とする理由。

・フェリー2隻体制では、国の認可が下りないと、想定される。

・島民の利便性、日帰り観光代替船確保の観点からも有利

・建造費比較すると、フェリーの方が割高になる。

・維持費比較すると、高速船がはるかに有利。

・収支率でも著しく有利。

・港湾整備計画との整合性を図る上でも、2隻体制の継続が必要。

・2隻体制の、見直しをする事で、新船就航年次が遅れ、港湾整備年次とのずれが生じる。

・町長からは、総合的な判断に基づき、離島振興策を最優先に判断した結果である。

以上の説明を受ける。

【質問】 高速船に島民からは、鮮魚だけでも運搬できないかとの声がある。検討の余地はあるか。

【回答】 運輸局へ打診しており、検討していただいている。

【質問】 島民、町民の意見を聞いて、国・道の理解を得る努力をしていくという事か。

【回答】 国や道は、地元の意見・希望を聞く姿勢を見せているが、新たに付加するのであれば、相応分は負担してもらおうというのが、最近の国の動きである。

【質問】 建造費に関して、町の関わりは。

【回答】 町の補助については、新しい補助制度を定めていないので、未確定である。建造費についても流動的で、細部にわたって検討していない。早めに示していく。

一定の目途がついた段階で、再度審議する事とした。



新建造予定の高速船

(8月25日開催)

羽幌保育園の

現状について

・昭和43年に開園し、43年経過している。

・主な改修3回、補修1回実施している。

・入所定員、90人だが0歳児保育開始もあり、50人前後の保育。

以上の説明を受ける

【質問】 入所者が負担している平均的な保育料はいくらか

【回答】 1カ月、約2万円。

【質問】 耐震調査に関する指示や指導は、どうなっているのか。

【回答】 道からの指導はない。未調査である。

【質問】 保育士の正職員、臨時職員の状況は。臨時職員の不安定雇用に対する、不安解消に努めてほしい。

【回答】 正職員3名、他5名は臨時職員。長い期間、勤めてほしい旨は伝えている。

こども園構想について

・平成18年に、認定こども園の制度が開始された。

・平成21年からは、幼保一体化への、包括的・一元的な制度の構築が進められた。

・「子供・子育て新システム検討会議」において、幼児教育と保育を共に提供する「こども園」について、法案提出後、平成25年に施行を予定。以上の説明を受ける。

【質問】 講想のねらいは、保育所に幼稚園機能を持たせたのか、民間の幼稚園に保育所機能を持たせたいのか、町はどうとらえているのか。

【回答】 こども園については、3歳未満の保育は義務化されず、行政が運営する場合とのメリット、デメリットを精査

し、検討する事となる。

【質問】 平成23〜24年頃には保育園の改築構想があったが、今後どう検討するのか。

【回答】 国の「中間取りまとめ」が発表された。一時中断していた児童福祉施設検討委員会での検討、当委員会にも検討内容を諮り、すすめる。老朽化著しい保育所の、建て替え問題の検討を、更に進めていく事とし、終了。

羽幌小学校校舎改築

基本構想策定業務について

・昨年11月開催の委員会での、小学校と保育所との併設等に係る課題を整理・検討した結果、併設はなじまない。

・基本構想策定の為の、調査委託を株式会社ドーコンと契約し、今年11月に中間報告、来年3月までに、最終答申を受ける。

・委託業務内容 ①基本的な考え方と方針 ②施設の有効利用と、維持管理を考慮した施設構想 ③財源対策の検討 ・「基本構想」を、計画の前の案とし、協議を進めていく。



以上の説明を受ける。

【質問】併設のデメリットについて、解決できない問題とは思えない。

【回答】総合的判断で、なじまないとの結果を出した。

【質問】天売小中学校建替の時も、コンパクト化が言われ、かなり議論した。

【回答】人口推計も考慮し、地域に見合った大きさの、校舎を考えていきたい。

【質問】避難所機能として大丈夫か。

【回答】防災計画見直しが出れば、併せて検討していく。

【質問】近年、木造建築が推奨される傾向もあるが。

# 総務産業常任委員会

(7月27日開催)

## ◆北るもい漁業協同組合荷捌所・事務所建設に係る経緯について

・5月12日、漁協・町・商会・観光協会のメンバーで産地協議会設立、羽幌町以外の3町村はオブザーバとして参加。

・6月13日、国庫補助金の承

【回答】可能な限り、木材を使っていきたい。最適な方法を検討していく。

中間報告が出来た時点で再度審議することを確認する。



改築予定の羽幌小学校

## ◆事業予定額(漁協積算)

### 【荷捌施設関係】

○構造は鉄骨造り平屋建て、荷捌き施設952.2㎡

○海水取水殺菌保管庫172.5㎡。国庫補助対象額3億3,295万円。

○水産庁の面積積算のチェックを受けるため変更もあり得る。

【事務所・電気室・補助対象外】

○事業費1億8,511万円  
○国庫補助対象外施設は4町村・漁協と必要面積等について協議するため、事業費が変更になる事もある。

【質問】新設の施設の面積は、現在の施設の2倍程度で妥当か。ソフト事業は5年間継続しなければならないのか。

【回答】昭和44年頃は木箱1箱に漁獲物を約10kg詰めていたが、現在は発砲スチロール1箱に3kg詰める。同じ漁獲量でも体積・面積は3倍必要

なため、これまでの面積では足りない状況だ。ソフト事業については5年間継続しなければならぬ。3年間は国庫

補助を事業費の2分の1受けられるが、その後の2年間は漁協と町の負担で実施しなければいけない。

【質問】国庫補助対象外の事務所部分の支援策について、4町村での協議状況は。

【回答】町村長の今後の判断になるものと思う。

【質問】24年2月の協議会を経て補助申請し、夏場に着工と想像できるが、時間的余裕はあるのか。

【回答】国庫補助交付決定後に着工となる。漁協は供用開始を、フェリーターミナルと同じ25年4月1日にしたい。工期が冬期間にかかった場合でも、外壁さえ出来ていれば問題ない。

【質問】平成24年度国庫補助は、見通しが立ったのか。

【回答】当初の申請段階で全体事業を示し、1年目の補助決定内示を受けたが、この後の補助の確約を受けた訳ではない。

【質問】今年度事業の視察の身は。

【回答】新潟と、その近くの粟島の荷捌き施設および直売所を視察したい。

【質問】ソフト事業の運営は産地協議会か。

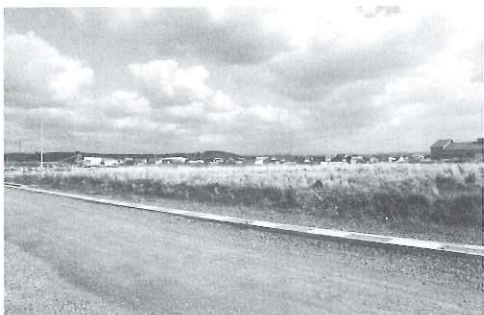
【回答】そのとおり。

【質問】荷捌き施設の面積について他の3町村や漁協の意見を十分聞いてほしい。

【回答】面積は水産庁の基準に沿って決まってゆく。

羽幌の荷捌き施設には羽幌・天売・焼尻の漁獲物が入る。初山別・天塩の漁獲物は苦前

に入る。そのため当事業の荷捌き施設に関し、苦前町・初山別村・天塩町の事業費負担なしという事で理解してほしい。



漁協・荷捌き施設建設予定地



# 平成22年度決算審査

9月15日開催 決算特別委員会

執行された年度予算が適正に使われたか、その事業評価も総括しながら、次年度以降への改善点を審議するのが「決算審査」。9月定例会の途中で、決算特別委員会（船本秀雄委員長）による22年度決算審査が行われ、全会一致で認定しました。今号では、その審査質疑の概要を紹介します。

## 一般会計

【質問】町のホームページに  
関わる費用は、どのくらいか。

【総務課長】保守契約期間が  
切れており、費用はかかって  
いない。

【質問】その町の情報を得る  
にはホームページが有効である  
が、制度や条例を調べると  
きの「例規集」ページの場所  
が、羽幌町ではわかりづらい。  
改善できないか。

【総務課長】今年度、システ  
ム更新し、新たにホームペー  
ジを立ち上げるので、検討し  
たい。

【質問】町営住宅でのトイレ  
の水洗化を進めてきているが、  
ウォシュレット機能付き便器  
を希望した場合、どう対応し  
ているのか。

【財務課長】水洗化接続工事

後、ウォシュレット部分を入  
居者負担で後付けしてもらっ  
ことになる。

【質問】昨年暮れ、正月過  
ぎと、猛吹雪により国道が2  
〜3日不通となり、道立羽幌  
病院に通院予定だった人工透  
析患者さんが、大変苦勞され  
た。こうした事態が起こった  
場合、予想される場合の対応  
を、道立病院や近隣自治体と  
も協議し、支援策を検討して  
ほしい。

【福祉課長】検討していき  
たい。

【質問】高速通信網整備につ  
いて、今後、全町的な取り組  
みとなるのか。

【総務課長】両島地区では整  
備されたが、本町では川南地  
区の国道から山側のみとなっ

ており、国道から浜側と川北  
地区は未整備である。NTT  
には引き続き、強く要望して  
いきたい。

【質問】エゾシカ対策として、  
電気柵敷設がかなり普及し、  
農作物被害の心配も少なくな  
った。そのためか、エゾシカ  
が市街地に現れる事態もでて  
きたが、実態はどうか。今後  
の対策は。

【産業課長】春ごろに羽幌小  
学校付近、最近では栄町付近  
でとの情報があった。危険が  
ないよう、充分に周知してい  
きたい。

【質問】「まちづくり事業基  
金」「人づくり応援基金」「ま  
ちづくり応援基金」「地域福  
祉基金」といったように、い  
くつも基金が区分されている。  
「まちづくりは人づくりから」  
ともいわれるように、基金も  
もっと大きなくくりで、町の  
活性化に使えるよう、見直し  
はどうか。

【町長】それぞれの目的があ  
り、また指定されての寄付金  
もあり、種類が分かれてもい  
るが、いろいろ工夫してみたい。

## 特別会計

【質問】特別養護老人ホーム  
「しあわせ荘」が改築され、  
外構工事も進んでいる。これ  
からの、冬期間の除雪体制は  
どうなるのか。

【福祉課長】指定管理してい  
る社会福祉協議会で行う。

【質問】これまでより敷地も  
広く、非常口も多くなったこ  
とから、除雪用機械や人員体  
制などを検討し、費用面でも  
見直しが必要ではないのか。  
【福祉課長】採算面では賄え  
ており、除雪も指定管理のな  
かで対応できるものと考える。

## 水道事業

【質問】現金預金での利子は  
どうなっているのか。

【建設水道課長】3年定期で  
の1年間満期が今年5月であ  
り、22年度には掲載されてい  
ない。

【質問】流動資金を使っている  
営業外収益を上げる努力もし  
てほしい。

【建設水道課長】この定期分  
を使って23、24年度で繰上償  
還を行い、財政の健全化を図  
っていきたい。これで、25年  
度以降では7、000万円弱  
の償還となり、2、200万  
円が免除される見込みである。

## 《あとがき》

○3月の東北・北関東での大  
震災と原発事故、秋には近畿  
での大水害、北海道でも小規  
模ながら大雨による土砂崩れ  
や冠水もあり、忘れることの  
できない年となりそうです。  
○津波避難対策では、道から  
本町が計画づくりのモデル地  
域に選定され、協議が始まっ  
ています。これから議会でも  
審議に加わり、住民のみなさ  
んの命と財産をしっかり守る  
ための対策を講じていかねば  
なりません。

○今期の議会、だより「ピッシ  
リ」を編集する議会広報特別  
委員会の顔を紹介します。  
(左写真) 今号からは、記事  
に見出しを付けるなど、見や  
すくわかりやすい工夫に努力  
してまいります。

